

自分の人生のサイクルに合わせて

大阪府済生会中津病院 小児科 免疫・アレルギーセンター

平口 雪子

私は二人の小学生の子供を持つ 23 年目の医師です。大学卒業後はそのまま小児科に入局して三重県内の病院で研修を行い、2 年目に赴任した国立療養所三重病院（現在の国立病院機構三重病院）で現在専門としているアレルギーの診療と出会いました。三重病院には研究室もあり、先生方は診療だけではなく当たり前のように基礎や臨床の研究をされていました。臨床の中で研究という面にも触れさせていただき、医師 2 年目にして早くもアレルギーを専門にしたいと思うようになりました。他の病院へ異動してからも理解ある上司のおかげで三重病院の藤澤隆夫先生の外来へ通ってアレルギー診療の勉強を続けさせていただきました。藤澤先生には臨床研究や学会発表の際もご指導いただくとともに、アレルギーを専門とされている多くの先生方にも引き合わせていただきました。多くの先生方との出会いは今でも私の財産になっています。

その後アレルギー専門医となり、基礎研究もやってみたいという思いが強くなりました。本来なら医局人事の中でまだ研究を始める時期ではなかったのですが、迷いながらも教授に短期間でもよいので三重病院で基礎研究をさせていただけないか相談したところ、『研究するなら大学院へ入ってはどうか』と勧めていただきました。その時初めて大学院の昼夜開講制（いわゆる社会人大学院生）の枠を知り、常勤医として働きながら三重大学の連携大学院である三重病院臨床研究部で基礎研究を始めることが出来ました。そこで好酸球の機能について研究を行い学位も取得し、なんとかアレルギー専門医としては独り立ちできたかなと思います。“何でも診られるスーパードクター”への憧れは今でもありますが、実際のところ私はそんなに色々なことを同時にできる能力の高い人間ではないので、早い時期に専門を決めてアレルギーの臨床と研究の両面を学べたことは後の人生にかなりプラスであったと思います。

結婚後は関西へ転居し現在の所属先で勤務するようになりましたが、それでも週に 1 回は臨床研究部へ通っていました。子供が生まれて 2 年くらいは研究からも離れていましたが、仕事に復帰すると臨床の中で調べたいことが出てきて、再び月に 1～2 回程度ですが臨床研究部に通って実験をさせていただいています。私がやりたいことを続けてこられたのは所属先の上司や同僚の先生方、研究部の皆様、そして私が三重に行く日に協力してくれている家族のおかげです。

臨床研究部には子育てしながら働く女性医師や実験助手の皆様がいらっしゃるの、いつも愚痴を聞いてもらったり元気をもらったりしています。子供が小学生になってから再び子供のために使う時間が増え、仕事面は停滞しがちで周りと比べて焦る気持ちになることもありますが、そんな時は出会ってきた諸先輩方の姿を思い浮かべ『子供が大きくなったらまた始められることも沢山ある』と励まされています。

[著者略歴] **平口 雪子 ひらぐち ゆきこ**

- 2001年 三重大学医学部卒業
三重大学医学部附属病院 小児科 医員
国立三重中央病院 小児科 医員
- 2002年 国立療養所三重病院 小児科 医員
山田赤十字病院 小児科 医員
- 2003年 三重大学医学部附属病院 小児科 医員
四日市社会保険病院 小児科 医員
- 2004年 独立行政法人国立病院機構三重病院 小児科 医員
- 2005年 三重県立総合医療センター 小児科 医員
- 2006年 独立行政法人国立病院機構三重病院 小児科 医員
- 2008年 大阪府済生会中津病院 小児科 免疫・アレルギーセンター 医員
- 2010年 三重大学医学部医学系研究科（博士課程）修了 医学博士取得
- 2017年 大阪府済生会中津病院 小児科 免疫・アレルギーセンター 副部長
現在に至る

【主な専門分野】

小児科、アレルギー

【主な学会活動歴】

日本小児科学会（専門医・指導医）日本アレルギー学会（専門医・指導医）日本小児アレルギー学会
日本小児臨床アレルギー学会

～ダイバーシティ・キャリア形成委員会より～

「出会い・バランス・感謝」 —キャリア形成に必要なこと—

人生の中では、様々な「出会い」があります。小児科医も同様です。平口先生のストーリーには、その時々のお出合いを大切に、自身のキャリア形成に繋げていく姿勢、すなわち自己実現を追求していく姿勢の大切さが、宝石のように散りばめられていると感じました。

次に「バランス」です。自己実現は、自分一人の力だけで追求していくことは難しいのではないのでしょうか。なぜなら、年齢を重ねるにつれて、自分が置かれている家庭、環境、職場、そして役職も変化して、様々な人々との関わり合いを考慮する必要があるからです。そんな中で、自分自身が今置かれている立場を俯瞰して、周囲との「バランス」を意識しながら、無理なく今出来る事を進めていくことの大切さを教わったような気がします。

そして最後が「感謝」です。職場の方々への感謝、家族への感謝の気持ちを抱いて日々接することが、周囲を動かし、自分自身が望むキャリア形成を後押ししてくれる力になるのではないかと感じました。